

# グラフときがわ

写真でときがわの「今」をお伝えする「グラフときがわ」。珍しい情報や写真は☎ 65-0401 広報担当までお寄せください。

## スポーツ振興くじ助成金で バスケットゴールを設置

独立行政法人日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成金（4,800,000円）を活用して、ときがわ町体育センターに電動バスケットゴールを設置しました。  
※スポーツ振興くじ助成金とは、独立行政法人日本スポーツ振興センターが実施している「スポーツくじ」の販売により得られる収益をもとに、地方公共団体やスポーツ団体が行うスポーツ振興を目的とする事業に対して行っているものです。



体育センターに新たに設置された電動バスケットゴール。

写真説明

## 県産材で作ったスピーカー スタンドが審査員特別賞受賞

このほど、高村クラフト工房の高村徹さん（大字大附）が、「第一回全日本木製iPhoneスピーカースタンドコンテスト」でデザイン部門審査員特別賞を受賞しました。普段は地域産の木材にこだわった家具や自動車の内装などを手がけている高村さんが出品したのは、充電不要の木製スピーカースタンド「KONOSOUND」。県産の桜材で作られたスピーカーは機能とともに、なめらかな曲線で構成されたデザインが高く評価されました。受賞おめでとうございます。



① KONOSOUNDを手にする高村さん。およそ10年前から同様の作品の制作を始め、音量とともに歌声の聞きやすさを追求している。②音を共振させるため10枚のフィンで構成されたスピーカースタンド。③形状はオートバイのシリンダーヘッドをイメージ。

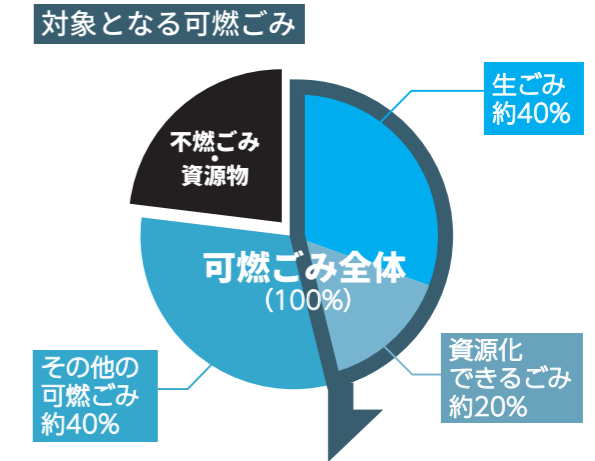
写真説明

## 田黒地区・関堀地区 ごみ減量化モデル事業の成果 実績報告

可燃ごみの削減を目的として、令和4年度にごみの減量化に取り組んでいただいた「ごみ減量化モデル事業」の実績をお知らせします。

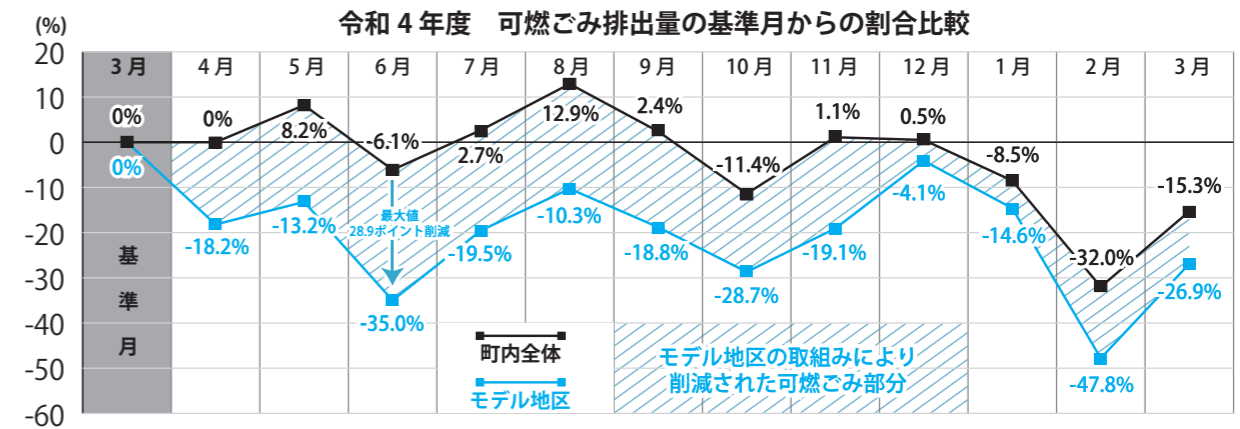
- 事業期間** 1年間  
(令和4年3月1日～令和5年3月31日)
- 参加世帯** 30世帯  
(田黒地区15世帯・関堀地区15世帯)
- 事業内容**
  - ・可燃ごみ及び雑がみの重量測定
  - ・コンポスト容器等の活用による生ごみの減量や水切りの徹底
  - ・ごみ分別の徹底。特に「雑がみ」を水曜日資源物として排出
  - ・剪定枝や刈草の自家処理または堆肥化

② 雑がみとは？ 新聞、雑誌、段ボール以外の紙類のこと。ティッシュの箱、お菓子の箱、ハガキ、封筒、コピー用紙、トイレトペーパーの芯など。毎週水曜日の資源回収の日に出すことができ、資源として売却収入にすることができます。



**モデル事業で削減に取り組む対象となるごみ**  
(可燃ごみ全体のうち約60%)

## 事業効果



可燃ごみの排出量を、町内全体とモデル地区それぞれにおいて、3月を基準月として、基準月と各月を比較し、どれだけの割合が増減したのかを上グラフに示しました。町内全体とモデル地区を比較すると、最大で28.9ポイントの削減、平均で約21.4ポイントの削減ができたことがわかりました。意識して取り組むことで、可燃ごみは大きく減らすことができます！

可燃ごみ削減量 1.48t × 44,000円/t = 65,120円の費用削減  
 雑がみ回収量 0.81t × 4,300円/t = 3,483円の売却収入

**ごみの削減量合計 2.29t**      **経費削減合計 68,603円**